




タイトル「**2016年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2016年度 経済学部シラバス**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	工業簿記			
担当教員	<a href="#">岡橋 充明</a>			
対象学年		クラス	E1	
講義室		開講学期	前期	
曜日・時限	火3,金1	単位区分		
授業形態	講義	単位数	4	
準備事項				
備考	標準履修年次 2・3年次			
科目名 (英語表記)	Industrial Bookkeeping			
授業の概要・ねらい	工業簿記とは工企業体(製造業)の会計処理に適用される簿記法である。工企業体は、一定の資本を調達し、それらを財貨および用役の調達に充当し、それらを生産過程に投入して新しい企業価値の創造を行うことを目的としている。工企業体の簿記は生産給付の価値形成過程に照準を合わせ、経済価値の移転関係を財貨的かつ物質的に測定されねばならない。ここに、原価計算制度との有機的な結合が必要となるのである。本講義においては、両者の不可分の関連において機能しているシステムを学ぶものである。			
授業計画	回	内容	回	内容
	1	オリエンテーション	16	原価計算の手続と記帳法(6)－組別総合原価計算(その1)－
	2	工業簿記の特色	17	原価計算の手続と記帳法(7)－組別総合原価計算(その2)－
	3	原価と原価計算	18	原価計算の手続と記帳法(8)－工程別総合原価計算(その1)－
	4	工業簿記の仕組み	19	原価計算の手続と記帳法(9)－工程別総合原価計算(その2)－
	5	原価の費目別計算－手続きと記帳－	20	原価計算の手続と記帳法(10)－直接原価計算(その1)－
	6	製造間接費の計算	21	原価計算の手続と記帳法(11)－直接原価計算(その2)－
	7	部門別計算	22	原価計算の手続と記帳法(12)－標準原価計算(その1)－
	8	原価計算の手続と記帳法(1)－個別原価計算(その1)－	23	原価計算の手続と記帳法(13)－標準原価計算(その2)－
	9	原価計算の手続と記帳法(2)－個別原価計算(その2)－	24	販売と決算(その1)
	10	原価計算の手続と記帳法(3)－単純総合原価計算(その1)－	25	販売と決算(その2)
	11	原価計算の手続と記帳法(4)－単純総合原価計算(その2)－	26	財務諸表(その1)
	12	原価計算の手続と記帳法(5)－単純総合原価計算(その3)－	27	財務諸表(その2)
		原価計算の手続と記帳法-単純総合原価計算(その		

	13	4) -	28	本社工場会計(その1)
	14	原価計算の手続と記帳法(2)―等級別総合原価計算(その1)―	29	本社工場会計(その2)
	15	原価計算の手続と記帳法(2)―等級別総合原価計算(その2)―	30	まとめ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引情報を見て仕訳が出来るようになること。またその逆に仕訳を見て、取引等が推定できること。</li> <li>基本的な原価計算の理解し、工業簿記システムに原価計算の結果をフィードバックできること。</li> <li>フィードバックされた原価情報をもとに、財務諸表の作成が行えること。</li> </ul>			
成績評価の方法	定期試験の得点によって成績を評価する			
教科書	適宜指示する。授業の内容の骨子はWEB上に提示しておく。			
参考書・参考文献	適宜指示する。			
履修上の注意・メッセージ	商業簿記、会計学原理などの授業を予め受講しておくこと。			
履修する上で必要な事項				
受講を推奨する関連科目	商業簿記、会計学原理			
授業時間外学習についての指示	<p>既述したWEBページ上に授業の骨子と例題を提示しているので、それを復習すること。また、必要に応じて予習の課題も掲げておくので、それを行うこと。</p> <p>また予め次回の講義の領域を示すので、そこを予習すること。</p>			
その他連絡事項				

